

[032]九州大学総合研究博物館ニュース

<https://hdl.handle.net/2324/2544164>

出版情報：九州大学総合研究博物館ニュース. 32, pp.1-, 2019-10. 九州大学総合研究博物館
バージョン：
権利関係：



NEWS

The Kyushu University Museum
九州大学総合研究博物館 ニュース

No. **32**
October, 2019

「森本桂コレクションとゾウムシ学」展示を開催しました

福岡ミュージアムウィークに伴うイベントでは、多くの皆様にご来場いただきました。ゾウムシ展では、一見すると地味なコレクションの重要性や、その背景にある物語を知って頂けたのではないのでしょうか。

この秋には、「開示室」の一般公開と、これにあわせた特別展示も行います。こちらにもご期待ください。

総合研究博物館第8代館長 緒方 一夫





特別展示

森本桂コレクションとゾウムシ学

丸山 宗利 一次資料研究系・准教授

期間 ● 2019年4月15日(月)～8月30日(金)[10月4日まで延長] / 場所 ● 総合研究博物館常設展示室 / 主催 ● 総合研究博物館・農学研究院昆虫学分野

ゾウムシとは甲虫の一群で、世界に10万種近くが知られていて、科レベルで動物界最大の分類群の一つです。一部は深刻な害虫としても知られていますが、多くの種は植物を食べ、森林生態系において重要な役割を担っています。

森本先生は日本産種の種名がほとんどわからない時代から、長年ゾウムシの分類学的研究を進められてこれ、700以上の新種を発表するとともに、日本産種の大部分を明らかにされました。森本先生の研究はそれだけにとどまらず、ゾウムシの進化と生態学に関する研究やその他の害虫に関するものにもおよび、その論文は世界中の研究者に引用されています。

1934年に高知県で生まれた森本先生は、九州大学進学直後からゾウムシの全般の研究を行うと決心されましたが、その際、農学部昆虫学教室初代教授の江崎悌三博士からは、あまりに壮大な夢だと一笑に付されたといいます。しかし上述のとおり、森本先生はその夢を現実のものとなりました。その困難さと偉大な業績は、小文では到底説明できませんが、それを象徴するのが当館に移管・寄贈されたコレクションです。

分類学の研究に必要なものは文献と標本です。しかし、森本先生が研究を始めた当初は、日本にはゾウムシの文献も標本もほとんどないうえに、外国の文献を集めること

は至難でした。そのような状況の中、先輩研究者から書籍を借りたり、私財を投じて購入したりし、血の滲むような思いで文献を収集されました。また、標本は自ら全国をまわって採集し、同時に多くの昆虫収集家の手を借りて、集められました。結果、標本に関しては総数25万、文献ともども東洋一のゾウムシコレクションを築かれたのです。

このご時世、お金になる研究や目立つ研究者ばかりがもてはやされ、森本先生とご研究のようなものは、なかなか日の目を見ません。ましてや、世界中の博物館が欲しがってやまない東洋一のコレクションも、上辺の先進国である日本では一顧だにされません。本当に立派な研究者とはどういう人だろうか。本当に大切なモノとはなんだろうか。そんなことを考えていただきたく、本展示を企画しました。

大変悲しいことに、9月3日に森本先生は85歳で永眠されました。数年前に病に倒れましたが、最後まで研究を続けようとされ、そのご姿勢には、ただただ頭が下がるばかりでした。森本先生の標本と資料は私たちが責任を持って未来へと受け継いで参ります。

- ① 会場の様子
- ② 当館に移管された森本コレクション
- ③ 展示中の標本

特別展示・展示協力

昆虫に関する 館外展示

丸山 宗利 一次資料研究系・准教授



これまでに当館では多数の昆虫関連の展示が行われてきました。その実績が買われ、最近では他の機関が企画する展示に関して、相談や協力の依頼を受けることが多くなり、今年は4件の館外展示を行いました。

1つ目は大阪市立自然史博物館で7月13日から9月29日まで行われた「特別展 昆虫」です。これは昨年、国立科学博物館で行われた同展が巡回したもので、筆者が監修に参加し、標本の貸し出し等を行いました。昨年は44万人の来場者がありましたが、今年も10万人を超える人出があったようです(9月1日現在)。

2つ目は東京の21_21 DESIGN SIGHTで行われた企画展「虫展 ―デザインのお手本―」で、7月19日から11月9日まで長期間にわたって行われています。筆者が企画相談や学術監修、資料の出展をおこなったほか、当館からも標本を貸し出しました。アート視点のこれまでにない昆虫展示でした。

3つ目は「大昆虫展 in 東京スカイツリー」で、7月14日から9月2日まで開催されました。今年から筆者が監修者として参加し、パネルに執筆等を行ったほか、当館から多数の大型美麗昆虫の標本を貸し出し、子供を中心とした来場者の目を楽しませ、9万人を超える来場者があったようです。

4つ目は糸島市の志摩歴史資料館で7月20日から9月1日まで行われた「丸山宗利のふしぎな昆虫ツノゼミ」です。筆者が撮影したツノゼミの野外生態写真をパネル化し、標本とともに展示しました。

当館には知名度の低さという問題があり、今後も館外で活動を行い、多くの方に当館の存在とその重要性を知っていただければと思っています。

2019 年度オープンキャンパス企画 伊都地区出張展示

総合研究博物館って どんなところ?

谷澤 亜里 開示研究系・助教

期間 ● 2019年8月3日(土)、4日(日)
場所 ● 総合研究博物館伊都分室(パブリック4号館)
総合研究博物館伊都イースト分室(イースト1号館)
監修 ● 谷澤 亜里 開示研究系・助教



今年度は、キャンパス移転を経て、箱崎地区から学生がいなくなつてから初めてのオープンキャンパスでした。そこで、高校生の皆さんに、総合研究博物館のことを知ってもらうべく、伊都分室で出張展示を行いました。

理系地区パブリック4号館の伊都分室では、九州大学が所蔵する古生物、昆虫、植物、工学などの各分野の標本について、パネルと実物資料で紹介しました。この部屋は、普段、授業や会議で使っていますが、その一角に、歴史的什器を活用した展示コーナーを設けています。

文系地区のイースト分室では、古人骨資料と考古資料のミニ展示を行いました。古人骨資料は弥生人と縄文人の比較を、考古資料は、旧玉泉館収蔵資料のなかから伊都キャンパスに近い遺跡から出土したものの紹介を行いました。なかでも、頭蓋骨レプリカの触れる展示は高校生たちの人気を集めていました。

今回の企画では、古生物分野・考古学分野の学生の皆さんにも展示の解説員として協力いただきました。展示やその解説を



通じて、大学での学問の世界に興味を持った高校生が一人でも増えてくれたら、と願います。

- ① 歴史的什器を活用した伊都分室の展示コーナー
- ② イースト分室での展示の様子

COLUMN①

『古代都城の空間操作と荘厳』を出版しました

すいれん舎／2019年6月20日発行／482ページ



本書は既発表の論考のうち、日本の古代都城に関するもの、王宮中枢部や儀式空間の構造やその変動、都城を荘厳する仏寺の構成要素(瓦・仏像)に関わるものを纏めたものです。新天皇即位後の大嘗祭に用いられる大嘗宮の整備過程、奈良

時代の天皇と上皇の宮の位置関係、天皇の住居たる内裏の造替の意義を論じています。奇しくも今年は、天皇退位、新天皇即位、大嘗祭挙行の年となりましたが、これは偶然です。このほか、天皇の宮の中枢部の構造変化や都城制の日本への

導入・受容に際しての取捨選択・換骨奪胎の様相を論じる論考、現存する古代の仏像彫刻の白眉と言われる平城薬師寺金堂本尊、それとの類似で仏像彫刻史上の問題作である山城・蟹満寺釈迦像の年代観などを論じる論考を掲載しました。

岩永 省三 一次資料研究系・教授



博物館施設公開

福岡ミュージアムウィーク2019

伊藤 泰弘 開示研究系・助教

期間●2019年5月18日(土)～26日(日)／場所●箱崎キャンパス保存地区 旧工学部本館

福岡ミュージアムウィーク2019(5月18日～26日)に参加しました。常設展示室では、企画展「森本桂コレクションとゾウムシ学」を開催。ミュージアムウィーク期間中は土日限定で、動物骨格標本開示室、高壮吉鉱物標本開示室、工学部列品室、壁画のある4階会議室、そして植物・昆虫・人骨・化石・工学系の資料開示室を公開しました。また、文書館からは1階で大学史料や箱崎キャンパスの風景画が展示されました。さらに、前田晴良教授によるサイエンスツアーや化石教室、体験できる企画として1階玄関ロビーにて鉱物標本制作のワークショップを行うなど盛り沢山でした。

今年は、博物館収蔵品が旧工学部本館建物に集約されてから、はじめてのミュージアムウィークです。例年、列品室・4階会議室の公開や、前田先生の化石教室は、ミュージアムウィーク期間中1日限定でしたが、期間中の土日、4日とも実施いたしました。

その他、5月25日(土)には、博物館の入る旧工学部本館と旧本部第1庁舎の建物の間のエリアを利用し、箱崎キャンパスで初の試みとして、地元箱崎の有志による「はこぎ暮らしのあとつぎ市」が開催されました。この日は、たいへん多くの市民の方々がお越しになり、博物館にも多数ご来館いただきました。さらに、5月26日(日)には、「大学がSPレコード・コレクションを所有するということ ―その保存と活用―」と題して、SPレコード&蓄音機に関する講演及び上演会が壁画の会議室で行われました。

今年のミュージアムウィークは、九州大学が伊都キャンパスへの移転を完了し、箱崎キャンパスは跡地となった中で行いましたが、お陰様で予想以上の多くの方々に越しいただき大盛況となりました。



COLUMN②

はこぎ暮らしのあとつぎ市

三島 美佐子 開示研究系・准教授

期間●2018年5月25日(土)／場所●箱崎キャンパス保存地区



箱崎キャンパスで開催されたこの催しは、ミュージアムウィーク最終週末の当館一般公開とあいまって、大変盛況でした。事務局を担ってくれた株式会社SAITOから「何かマルシェ的なものを一緒にやろう」とお話し頂いたのが1月中旬。それから九大の教職員

学生や地元箱崎の店舗はじめ沢山の皆様とともに、一気に準備を進めての開催でした。当館は「あとつぎ市実行委員会」メンバーとして参画し、また、壊れた救済什器の解体実演「家具解体ショー」を実施。市民有志の皆さんは、グッズや機器のバザーで当

館への寄付を集めてくださいました。初夏の日差しの強い一日でしたが、来場された皆さんは木陰などでゆったりと思い思いに過ごされており、箱崎キャンパス跡地ならではの今後の活用あり方を考える、非常にいいきっかけとなりました。

特別寄稿

総合研究博物館でのデッサン・写真撮影研修

古賀 涼子 専門学校九州デザイナー学院・イラストレーション学科担任
柳 千春 専門学校九州デザイナー学院・写真学科担任



令和元年5月29日(水)、専門学校九州デザイナー学院イラストレーション学科・総合デザイン学科・フィギュアデザイン学科の校外授業として骨格標本や剥製などのデッサンを行いました。

普段は書籍や画像でしか見られないような骨格標本が何体もすぐ目の前にある状況に、学生たちは大興奮でした。次から次へとどんどんスケッチを重ねていく学生、骨格標本室を何周もしてお気に入りを見つけてからじっくり腰を据えて1枚のデッサンに取り組む学生、と様々でした。

ただ、どの学生にも共通して見られた現象は、今回のデッサン以降、奥行をとらえる能力が向上したという点です。

今まで学内通常授業でのデッサンでは苦戦していたのに、実際の骨格標本や剥製と向き合うことで堰を切ったように感覚をつかんだ学生が何人もいたのです。

普段作品を制作する際には様々な角度の資料を探したりしますし、3D 画像で見ることができたりもします。それらの資料ももちろん大変参考になるものではあるのですが、

しかしやはり、それだけでは伸びづらい感覚があるのだと改めて思い知るに至り、講師としても学ばせていただける機会となりました。

令和元年7月22日(月)から23日(火)にかけては、林忠彦賞受賞フォトグラファー野村恵子さんとの撮影ワークショップを行いました!女優さんや人物撮影経験が多い野村さんの撮影を見学。モデルさんとの距離の縮め方や、自分が動いて撮影ポイントを探すことなど様々な心得を学び各自イメージを探して思い思いの場所で写真を撮影しました。撮影した写真からセレクトし、コンセプトと共にプレゼンし、野村さんに講評して頂きました。探して、見る、写真として切り取る力が鍛錬されたワークショップとなりました。

モデル/声優学科、俳優学科(九州ビジュアルアーツ)
衣装、スタイリング/ファッション学科(九州デザイナー学院)
ヘアメイク/トータルビューティー学科(九州スクールオブビジネス)

- ① 動物骨格標本開示室でのデッサンの様子
②③ 壁画の会議室での写真撮影ワークショップ

COLUMN③

御所浦白亜紀資料館への展示協力

前田 晴良 分析技術開発系・教授

日本有数の化石産地・熊本県天草市御所浦(ごしょうら)町・御所浦白亜紀資料館において、2019年7月13日～9月1日まで特別展「世界のアンモナイト」が開催されました。

九州大学総合研究博物館では特別展に協力するため、当

館秘蔵のアンモナイト化石60点以上を貸し出しました(写真)。この中にはサハリン海外学術調査で採集した研究中の大型アンモナイトや、昨年、クラウドファンディングによるご支援で購入した貴重な海外産の標本が含まれます。特別展は好評裏に

終了しました。

当博物館と御所浦白亜紀資料館は、以前から研究・教育の両面で協力関係にあります。今後、さらにフィールドセミナー等を開催して連携を深めて行きたいと思います。





研究紹介

奈良時代の古代銅製錬に挑む

— 長登銅山古代銅製錬実験 2018年の成果から —

中西 哲也 分析技術開発系・准教授

山口県美祢市美東町には、国指定史跡「長登銅山跡」があり、奈良の大仏建立に使われた銅を産出した事で知られています。銅鉱床は、秋吉台石灰岩とそれに貫入した花ノ山花崗岩との境界に生じた接触交代鉱床（スカルン鉱床）です。初生の銅鉱石は、黄銅鉱（ CuFeS_2 ）を含む硫化銅鉱ですが、地表近くでは風化により、緑色の孔雀石（ $\text{Cu}_2(\text{CO}_3)(\text{OH})_2$ ）や赤褐色の褐鉄鉱（ $\text{Fe}_2\text{O}_3 \cdot n\text{H}_2\text{O}$ ）を含む酸化銅鉱に変化します。孔雀石は鮮やかな緑色で非常に見つけ易く、世界中の古代銅鉱山で、同様の酸化銅鉱の採掘が行われました。長登銅山では、1990年から美東町教育委員会による発掘調査が行われ、大切に銅を送った証拠となる木簡や銅製錬に伴う大量のスラグ（製錬滓：カラミ）と炉壁、羽口、銅鉱石等が出土しました。鉱石は全て酸化銅鉱でした。

酸化銅鉱は、木炭を用いて還元する事で金属銅を生じます。美東町では2001年より、教育委員会と地元有志が組織した“古代銅製錬愛好会”が、毎年の銅山祭の一環として古代銅

製錬復元実験を行っています。筆者は2004年から製錬実験に参加し、製錬原料やスラグ、生成金属の分析を行ってきました。製錬では発掘成果を基に、高さ1m、内径32cmの堅型炉を築炉し、チリ産の酸化銅鉱と長登産褐鉄鉱（現在は酸化鉄試薬）及び石灰を配合した原料と木炭（堅炭、雑炭）を予熱した炉に交互に投入します。炉内温度は送風量で調節し、熱電対で計測します。

銅製錬の原理として、酸化銅鉱石に含まれる酸化銅と二酸化ケイ素のうち、二酸化ケイ素を副原料の酸化鉄と反応させ、スラグ（鉄カンラン石：ファヤライト）として熔融させます。鉱石中に鉄が多い場合は炉壁中の二酸化ケイ素と反応を起こします。石灰の量はスラグの組成に反映され、スラグが溶ける温度を下げる働きをします。酸化銅は木炭から生じた一酸化炭素により還元されて金属銅となり、比重が大きいので熔融したスラグの下に溜まります。

鉱石と木炭の投入を繰り返すと、鉱石の熔融が進み、炉

内に溶けた金属銅とスラグが溜まります。タイミングを見計らって炉底から5cm程上の炉壁に開けたカラミ口を開栓し、スラグを炉外に流し出します。これを何度か繰り返し、最後に炉底から開けた湯口を開栓し、金属銅を流出させます。

理屈としては、それ程難しくはないのですが、実際の作業では、原料鉱石の配合比、木炭の質、温度(送風量)の調節等を最適にしないと中々上手くいきません。特に送風は、お祭りの体験を兼ねた踏みフイゴと送風器を切り替えて使いますが、これまでの経験では、送風が不十分で温度が下がると、炉底のスラグが固まってしまう、逆に温度を上げ過ぎると酸化鉄が還元されて金属鉄が生じ、金属銅が分離しない事などが分かってきました。

2009年の実験では、初めて炉底にまとまった銅塊が生成し、2011年のニュースで紹介しています。2018年の製錬実験では、2.5kgの銅が炉外に流出しました。作業条件として、木炭3kg

(堅炭:雑炭=1:2)16回と原料3kg(銅鉱石:酸化鉄:石灰=5:3:2)を15回投入。9~11時まで1130℃以下を維持。この間木炭8回、原料7回投入。11~14時は1280℃前後で木炭8回、原料8回を投入。生成物として、12:07カラミ口流出(1回目:

スラグ0.1kg)、12:20カラミ口流出(2回目:スラグ8.4kg、銅1kg)、13:45湯口流出(1回目:スラグ5.9kg、銅1.5kg)。これに炉内スラグ13.5kg(下底に銅を含む)を加えると、生成物総量は30.4kg(内2.5kg+aが銅)。鉱石の銅品位が15%前後であることから、投入した原料45kg中の銅は約3.3kgとなり、その大部分が炉外に流出したことになります。実験開始から18年目に

して、やっと奈良時代の技術に追いつく事ができたわけです。



- ① 製錬実験の円筒型炉
- ② 銅鉱石による炎色反応(緑色)
- ③ カラミ口から流出したスラグ(2回目)
- ④ 湯口スラグの下に流れ出していた金属銅

《催事予告》

九州大学総合研究博物館 第20回 公開展示

「博物の森へようこそ」

期間 ● 2019年11月9日(土)・10日(日)・16日(土)・17日(日) / 会場 ● 九州大学 箱崎キャンパス保存地区 旧工学部本館 / 開館時間 ● 10:00-16:00

特別展示3本立て

期間 ● 2019年10月21日(月)~12月27日(金)

「探究、博物の森 — 標本たちのこれまでとこれから —」

会場 ● 箱崎キャンパス保存地区 旧工学部本館 3階 常設展示室

「よりぬき玉泉館」

会場 ● 箱崎キャンパス保存地区 旧工学部本館 2・3階 廊下

「うつわと九大 其の三」

会場 ● 箱崎キャンパス保存地区 旧工学部本館 2階 廊下

「音と旅する鉱物展」(仮)

九大所蔵の鉱物と音楽家 原摩利彦氏による音のコラボレーション

期間 ● 2019年12月21日(土)~1月26日(日)(12/31と1/1は休館日) / 会場 ● 三菱地所アルティアム(福岡市中央区天神 1-7-11 イムズ 8F)

COLUMN④

復職のご挨拶



2019年5月に育児休業より復職しました、米元史織です。専門は自然人類学です。遺跡から出土した人骨の四肢骨の筋付着部の発達度を分析し、よく使われていた筋とそうでない筋を識別することで体の使い方を推察、過去の人々の身体活動やそ

の差異の表れ方の時代変化を明らかにする、という研究を行っています。骨つなかりで古人骨だけでなく、当館に所蔵されている現生の動物骨格群(旧医学部標本)の管理も行っています。今後は古人骨の研究や展示はもちろん、動物骨格を用いた展示

米元 史織 開示研究系・助教

なども行っていきます。気味悪がられるか古いから立派と思われがちな資料達ですが、観察と比較によって、生物の進化や過去の人々の生活など沢山の学びがあることを伝えていければと思っています。よろしくお願ひいたします。



展示・講演会関係の活動状況

Activities of Exhibitions & Conferences

特別展示

- 「森本桂コレクションとゾウムシ学」
期間○令和元年4月15日(月)～9月30日(月)
場所○箱崎キャンパス保存地区旧工学部本館3階常設展示室
主催○九州大学総合研究博物館
- 志摩歴史資料館夏季企画展／九州大学総合研究博物館特別展示
「丸山宗利のふしぎな昆虫ツノゼミ」
期間○令和元年7月20日(土)～9月1日(日)
会場○志摩歴史資料館
主催○志摩歴史資料館
共催○九州大学総合研究博物館
- 「鈴木淳×AQAプロジェクトとはすかたりー学舎の肖像ー」
Portraits Speak:Kyushu University with Atsushi Suzuki Curated by AQA project
期間○令和元年9月14日(土)～10月9日(水)
場所○箱崎キャンパス保存地区旧工学部本館1階特設会場
主催○九州大学文書館、九州大学総合研究博物館、AQAプロジェクト
共催○九州大学文学部、文学部歴史編纂室
協力○平成29～30年度QRプロジェクト人社系アジア研究
活性化重点支援「九州大学人社系研究拠点形成のための記録・保存・展示」

ラジオ・テレビ出演

- NHK ラジオ第一放送とNHK ワールド・ラジオ日本
「NHKラジオ夏休み子ども科学電話相談」
(丸山宗利准教授)
令和元年8月1日(木)～3日(金)
- 日本テレビ
「ZIP! 特集 なーるほだスカレッジ」
(小池裕子 専門研究員)
令和元年9月25日(水)

講座・講演会等

- 「地質の日」記念企画
講座「化石化のメカニズムを探る」
(前田晴良教授)
令和元年5月18日(土)、19(日)、25(土)、26(日)
場所○箱崎キャンパス保存地区旧工学部本館2階化石開覧
開示室
主催○九州大学総合研究博物館、九州大学・オールアンモナイト
プロジェクト
- 家具解体実演 in「はこざき 暮らしのあとつぎ市」
令和元年5月25日(土)
場所○箱崎キャンパス保存地区旧工学部本館玄関
主催○歴史的な木製学校家具を救え! 九大什器保全活用
プロジェクト

- スペシャル講演&SPレコード上演会
講演「大学がSPレコード・コレクションを所有するということーその保存と活用ー」
(京谷啓徳 九州大学大学院人文科学研究院・准教授)
SPレコード上演「田村コレクションの古賀政男を聴く」
(大久保 真利子 九州大学総合研究博物館・専門研究員)
令和元年5月26日(日)
場所○箱崎キャンパス保存地区旧工学部本館4階会議室
主催○箱崎SPレコード研究会・九州大学総合研究博物館

- 第13回ふくつ読書まつり
講演「アリの巣をめぐる冒険」
(丸山宗利准教授)
令和元年8月4日(日)
場所○福津市立図書館
主催○福津市立図書館

サテライト展示

- 福岡県の蝶9
期間○平成28年3月17日(金)～継続中
場所○糸島市図書館二文館

協力

- 「はこざき 暮らしのあとつぎ市」
期間○令和元年5月25日(土)
場所○箱崎キャンパス保存地区
主催○あとつぎ市実行委員会
協力○九州大学・九州大学総合研究博物館
- 大阪自然史博物館特別展「昆虫」
期間○令和元年7月13日(土)～9月29日(日)
場所○大阪市立自然史博物館
主催○大阪府教育委員会、読売新聞社、関西テレビ放送
後援○大阪府教育委員会、大阪府教育委員会、堺市教育委員会
協賛○住友生命
特別協力○国立科学博物館
協力○九州大学総合研究博物館
- 特別展「世界のアンモナイト」
期間○令和元年7月13日(土)～9月1日(日)
場所○天草市立御所浦白亜紀資料館
主催○天草市、天草市立御所浦白亜紀資料館
後援○熊本県、熊本県教育委員会、天草市教育委員会、
天草ジオパーク推進協議会、(一社)天草宝島観光協会、
熊本日日新聞社、エフエム熊本
協力○九州大学総合研究博物館、九州大学・オールアンモナイト
プロジェクト、国立科学博物館、北九州市いのちの
たび博物館、熊本大学理学部、京都大学理学部地質学
鉱物研究室、(一社)天草ジオパークサポート、御所浦
ジオツーリズムガイドの会、御所浦アイランドツーリ
ズム推進協議会、御所浦白亜紀資料館友の会、御所浦
物産館しおさい館ほか
- 21_21 DESIGN SIGHT 企画展「虫展 デザインのお手本」
期間○令和元年7月19日(金)～11月4日(月)
場所○21_21 DESIGN SIGHT ギャラリー1&2
主催○21_21 DESIGN SIGHT、公益財団法人 三宅一生
デザイン文化財団

- 後援○文化庁、経済産業省、港区教育委員会
特別協賛○三井不動産株式会社
協賛○株式会社TSDO
協力○株式会社ストラタス・ジャパン、九州大学総合
研究博物館、キャノン株式会社、キャノンマーケ
ティングジャパン株式会社

- 面河山岳博物館第53回特別展「ときめく石きらめく虫
～久万高原のお宝鉱物と世界の輝く昆虫～」
期間○令和元年7月20日(土)～9月1日(日)
場所○面河山岳博物館
主催○久万高原町、面河山岳博物館、愛媛新聞社
後援○愛媛県、愛媛県教育委員会、松山市教育委員会、
東温市教育委員会、伊予市教育委員会、松前町
教育委員会、砥部町教育委員会、久万高原町教育
委員会、NHK 松山放送局、南海放送、テレビ愛媛、
あいテレビ、愛媛朝日テレビ、愛媛CATV、FM愛媛
協力○愛媛県総合科学博物館、和歌山県立自然博物館、
箕面公園昆虫館、伊丹市昆虫館、南日本自然史
博物館、公益財団法人益富地学会館、愛媛石の会、
構造地質研究会、アース製薬(株)、(有)大宝砕石工業、
中予砕石(株)、石橋隆、宇都宮康博、景山寛司、
木村英樹、丸山宗利、水舟淑朗、吉川明宏

- 「大昆虫展 in 東京スカイツリータウン®」みんなで応援!
昆虫メダリスト
期間○令和元年7月20日(土)～9月1日(日)
場所○東京ソラマチ®イーストヤード5階「スペース634」
主催○大昆虫展実行委員会

博物館施設一般公開

- 福岡ミュージアムウィーク 2019 参加に伴う施設公開
期間○令和元年5月18日(土)～5月26日(日)
場所○九州大学総合研究博物館常設展示室、工學列品室、
各開示室、4階会議室



その他の活動状況

Others

運営委員会

- 令和元年 6月10日
- 令和元年 7月31日(書面)

団体見学

- 令和元年 4月5日(金)九州大学同窓生 20名
- 令和元年 6月29日(土)古賀市立歴史資料館自然史・歴史講座 40名
- 令和元年 8月1日(木)長崎国際大学人間社会学部留学生 16名

▶総合研究博物館では、『博物館活動充実基金』として皆様からのご寄付を受け付けています。

手続きの流れ

1. 当館HPに掲載の寄附申込書(博物館活動充実基金用)にご記入ください。
2. 事前に博物館事務室までご連絡頂ければ、申込書記入内容の確認をいたします。
3. 寄附申込書原本を、博物館事務室までご郵送願います。
4. 入金依頼書をお送りいたしますので、同封の振込用紙により納入してください。
5. 入金確認後に、御礼状と「寄付金領収書」をお送りさせていただきます。寄付金領収書は税法上の優遇措置に必要ですので、
確定申告まで保管して下さい。

※当基金への寄付金は、所得税、法人税、相続税、住民税(自治体により異なります)の優遇措置を受けることができます。

詳細は当館ホームページもご参照ください。

<http://www.museum.kyushu-u.ac.jp/information/museumfund.html>

お問い合わせ先：総合研究博物館事務室／電話 ●092-642-4252／メール ●office@museum.kyushu-u.ac.jp

九大博 充実基金

